

STAGE+を楽しむ(76)(HP 収載)  
—ポリーニによるベートーヴェン—

1. 始めに

前報(75)に引き続き、STAGE+のポリーニとベームの共演によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番《皇帝》とピアノ協奏曲第3番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ポリーニとベームの共演によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番《皇帝》とピアノ協奏曲第3番の演奏を選びました。

ポリーニとベームの共演によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番《皇帝》  
ウィーン・フィルと共に

収録日: 1978年5月16日

2024年1月1日までの期間限定

マウリツィオ・ポリーニは1970年代後半、30代半ばにベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲の録音を行いました。本映像はその模様で、曲は最も有名な第5番《皇帝》です。冒頭から煌びやかな音色で自らの音世界へと引き込むポリーニの迫力に圧倒されることでしょう。晩年のカール・ベーム率いるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団はその輝かしい演奏を濃密な音、豊かな音圧で支えています。それぞれの音楽性は違うのにもかかわらず、重なり合うことで見事なバランスが生まれる様には大きな感動を覚えます。

ソリスト:

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

演奏:

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

カール・ベーム

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノ協奏曲第5番変ホ長調 op. 73 《皇帝》



ポリーニとベームの共演によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番  
ウィーン・フィルと共に

収録日: 1977年11月4日

2024年1月1日までの期間限定

本映像は、マウリツィオ・ポリーニが行ったベートーヴェンのピアノ協奏曲全集の録音の様式です。ピアノ協奏曲第3番に取り組んだのは1977年、ポリーニが35歳と技術、精神共に非常に充実していた時期です。磨き抜かれた美しい音色、鮮やかなコントラスト、そして「ミスター・パーフェクト」の名にふさわしい圧倒的なテクニックを存分に発揮。それをベームが率いるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の密度の高い音と精緻なアンサンブルが支えています。

ソリスト:

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

演奏:

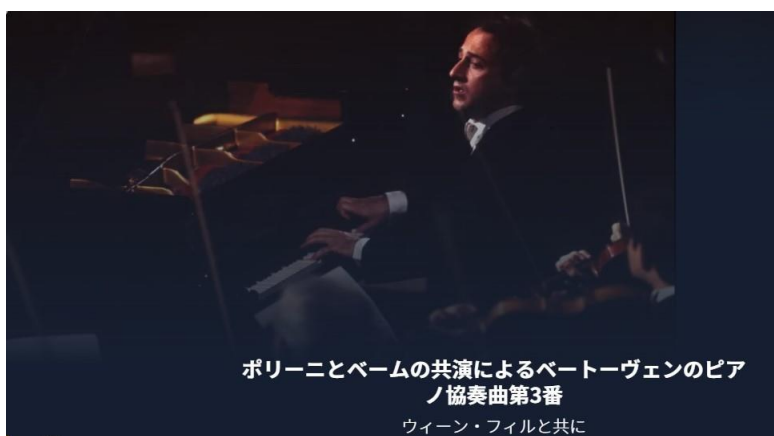
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

カール・ベーム

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ピアノ協奏曲第3番ハ短調 op. 37



### 3. 試聴の経過

ポリニーとベーム指揮のウィーン・フィルハーモニーのコンビは、モーツァルトのピアノ協奏曲のアナログ盤を持っていますが、ベートーヴェンのピアノ協奏曲は持ち合わせていません。

ピアノ協奏曲5番は、通例《皇帝》と称される、この曲のイメージ通り、壮大な演奏スタイルが好まれています。ベームの丁寧な音の紡ぎに載せて、若いポリニーのピアノは、むしろロマンチズムに溢れた輝かしい演奏です。



ピアノ協奏曲3番は、これも緻密なオーケストラをバックに、ポリニーの美しい高音が輝きます。



音質は、収録年代がかなり以前ですが、ポリニのピアノも本拠地でのオーケストラの音も相当に優れたものです。このような名演奏が映像付きで観賞できることはありがたいことです。

#### 4. まとめ

以上の STAGE+配信は、追加の LAN iSilencer の効果も加わって、ポリニの輝くようなピアノの響きとベーム指揮のウィーン・フィルハーモニーの美しい旋律が味わえました。

以上